

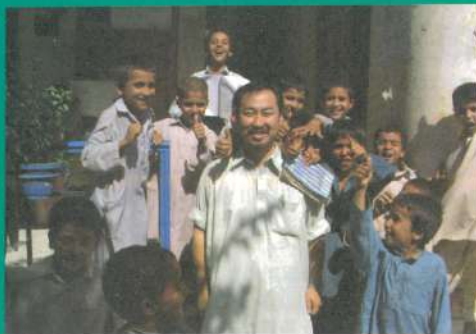
Shanti

シャンティ

288 2017年1月
ふゆ

『シャンティ』通巻288号 2017年1月1日発行（1・4・7・10月の1日発行）
1985年6月28日 第三種郵便物承認

安心して学ぶ
喜びを届けたい。



道

卷末言

本で学ぶ喜びを実現する
社会を目指して

常務理事 市川 斉

あけましておめでとうございます。初めて海外で正月を迎えたのは2006年、アフガニスタンでした。元旦から人々が働いていて、習慣の違いを感じたのを今でも覚えています。アメリカ同時多発テロ事件の発生を受け、アフガニスタン難民の支援を開始し、2003年から教育支援活動を始めました。当時、あらゆる社会基盤が崩壊し、まともな校舎もなく、教材も皆無。首都カブールの図書館に30年前にソ連から贈られた絵本が数十冊ある程度でした。少し田舎にいれば、銃を担ぐ少年兵を見ることも当たり前。NGOを狙った犯行も発生し、セキユリ

ティを意識しながらの活動であり、かなり過酷なものでした。

あれから11年。行政、親、地域リーダーが教育や図書館活動の重要性を認識し、当会の活動への理解者が増えました。「シャンティの良い所は、地道な活動を繰り返して、根付くまでやってくれるところだよ」と、教育局の担当者に言われたことを思い出します。

そして、設立35年を迎えた今、新たな事業地としてネパールで活動を開始します。ネパールはこの20年間で政治的に混乱し、新憲法が公布されたのはM7.8の地震が発生した2015年でした。目立った産業もなく、男性の多くは中東に出稼ぎに行き、女性と子どもたちが農業でほぼそと生計を立てています。人身売買も横行し、子どもが安

心して生活できる環境とは言えません。そんな子どもたちに、被災した校舎の再建や図書館活動を通して、安心して学ぶ喜びを届けたいと考えています。

本に接することができない子どもたちがいない社会を創りたい。子どもたちが自らの人生を自分の力で歩んでいく社会。そんな社会が実現した時、すべての人が笑顔で幸せに生き、争いのない社会が創造されると信じています。

しかし、難民問題、紛争、貧困問題など、収まるどころか激しさを増しています。「本の力を、生きる力」となる社会が実現するまで、もう少しです。そのため、今後皆様さん、お力添えをよろしくお願いします。

35年目の 新たな一歩

ネパール支援開始

特集

シャンティが産声をあげてから、
35年の月日が経ちました。

その間、時代の移り変わりとともに、
活動内容も変化してきましたが、

「共に生き、共に学ぶ」、

これまで受け継がれてきた想いと精神は
今も変わりません。

そんな35年という節目に初心に立ち返り、
ネパールで新たな一歩を踏み出します。

世界一高い山、エベレストがそびえ立ち、
お釈迦さまの生誕地でもあるネパールの
今と、これからについてお伝えします。

Index

シャンティ 288号 目次

04 35年目の新たな一歩 ～ネパール支援開始

ネパールってどんな国？
ネパールの暮らし
ネパールが抱える課題
シャンティによるネパールでの活動
ネパールでの緊急救援と事務所開設を振り返って
もっとネパールを身近に感じるエトセトラ

18 私たちのお祭り ネパール「ティハール」

20 定点観測…アジアから

カンボジア／ラオス／ミャンマー（ビルマ）難民キャ
ンプ／アフガニスタン／ミャンマー／岩手／山元

27 日本しゃんていな旅 常現寺

28 世界の絵本を読んでみよう

「たいせつな友だち」民話絵本 ミャンマー

30 おしらせ／編集後記

道 「本で学ぶ喜びを実現する社会を目指して」
常務理事 市川斉

ネパールでは震災前から、子どもが農作業に従事したり、経済的な理由で学校に通えないことが多く、子どもが学校離れが課題となっていました。震災により校舎の3分の2が全壊、または半壊したため、授業ができず、さらなる学校離れが懸念されています。このようなネパールの教育課題の解決に向け、シャンティは35年間蓄積してきた経験とノウハウを生かし、新たに教育支援活動をネパールで開始します。

地震発生5日後から開始した緊急救援活動を通じて、仮設校舎の建設やトイレの設置、学用品の配布、女性向けシェルターや子どものための空間の設置などを行いました。

87%の学校校舎が全壊または半壊したヌワコット郡では、ネパール政府や国際機関、他のNGOと連携し、93の学校に248の仮教室を設置しました。しかし、ネパール政府による復興活動は充分とは言えず、多くの学校がいまだに仮教室を使っています。

震災から1年半 緊急救援から 復興支援へ



上：ヌワコット郡パドラク女性の共同組合
下：ヌワコット郡被災した家屋

特集

35年目の新たな一歩 ネパール支援開始

シャンティとネパールとのご縁

シャンティ国際ボランティア会会長・若林恭英（安楽寺住職）

シャンティがネパールで迅速に支援を開始できたのは、40年前、長野での出会いがあったからです。ネパールのホテル建設に参加するため、上田市から大工がネパールへ渡りました。大工はネパール人女性と結婚して帰国し、上田でネパール料理店を開業。その後、安楽寺の先代住職である若林順天老師がネパール料理店の店主と意気投合。ネパールはお釈迦様が生まれた国であることから、次第に親睦が深まり、ネパール大使が安楽寺に宿

泊されたことも。その後、姉を頼ってネパールから来日した妹や弟たちも日本各地でネパール料理店を開くようになりました。

そして2015年、ネパールで大地震が発生。すぐさま、先代の頃から接点のあった日本に住むネパール人コミュニティに連絡し、震災発生5日後から緊急支援を開始することができました。40年前から続くこのご縁に、ただただ感謝です。

2015年4月25日、M7.8の地震が首都カトマンズの北西約81kmでネパールを襲いました。死者89000人、全壊家屋60万戸、半壊家屋27万戸にのぼり、4万7700以上の教室が被害を受けました。これまで国内外で発生した大規模な震災に対し緊急支援を行ってきたシャンティも、地震発生から5日後に現地入りし、緊急救援を開始しました。

震災から1年半が経過し、緊急救援から復興支援へ移行し、元々課題であった教育に対する支援の必要性が高まっています。一日でも早くネパールの子どもたちに安心して学べる環境を届けるため、シャンティはネパール事務所を開設し、支援活動を開始しました。

※ UNOCHA "Weekly Situation Update, 21 August 2015"

CHINA
中華人民共和国

2016年

2015年

2008年

2006年

1996年

1814年

1484年

12世紀

● M7.8の地震が発生。
● 新憲法が公布され、プシュバ・カマル・ダハール(プラチャンダ)が首相に選出される。
● 日・ネパール外交関係樹立60周年を迎えた。

● 王政に圧力をかけるため既成党が共闘の手を結び議会制が復活し、王政を廃止し、連邦民主共和国に。
● 包括的和平合意が成立。10年におよぶ内戦が終結。
● 共産党毛派(マオイスト)闘争が始まり、王政、新政府を相手に共産党毛派が人民戦争を開始。
● チベット侵攻などを行うネパールの勢力拡大を恐れたイギリスとの間でグルガ戦争(ネパール戦争)勃発。

● ネパール文明が築かれ、マツラ王朝によって多くの寺院が築かれた。
● マツラ王朝の王の死後、カトマンズ、バクタプル、パタンの3王朝が連立し勢力を争い、その後も多くの王国が登場する。

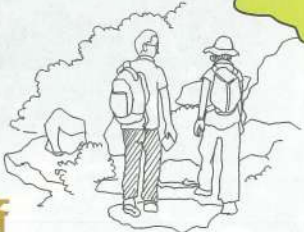


シャンティの活動予定地

ラスワ郡
ヌワコット郡



INDIA
インド



社会

93の言語・地域語を持ち、100以上の民族が暮らす多民族国家。約14.7万km²の国土を持ち、北海道の約1.8倍。北は中国のチベット自治区、東西と南はインドと国境を接している。2006年6月に議会によって非宗教国と宣言されたが、ヒンドゥー教(81.3%)、仏教(9%)、イスラム教(4.4%)などさまざまな宗教を受け入れている。民主化、経済自由化、貧困削減、地域・カースト・民族間の格差解消、産業復興など課題は山積。

経済

後発開発途上国と位置づけられ、GDPの約31.7%と、人口の約67%を農業に依存する農業国。インド、日本、イギリスをはじめ、各国政府や国際機関より多額の開発援助を受けている。インドとの関係が強く、ネパールからは工業製品、既製品、カーペットなどを輸出し、石油製品や鉄鋼製品、機械部品などをインドから輸入している。1975年から95年にかけて、旅行客が4倍に増加し、単なる観光客の増加が2.6倍に対し、登山やトレッキングが7倍近く増加している。

政治

1996年よりネパール統一共産党毛沢東主義派(マオイスト)による武力闘争が起き、政情不安に。2006年に包括和平が成立し、2008年には制憲議会選挙を実施。制憲議会初会合で王政が廃止され、連邦民主共和制に移行。2008年の王制廃止以降、憲法策定作業が難航し、新憲法が公布されたのは2015年9月20日。同年プシュバ・カマル・ダハール(プラチャンダ)議長が首相に選出され、新政権が発足。



Nepal

ネパール連邦民主共和国

公用語：ネパール語
首都：カトマンズ
面積：147,181km² (北海道の約1.8倍)
人口：2,649万人 (2011年人口調査)
GDP：一人当たり約752USドル (2015 / 2016年度ネパール中央統計局)
通貨：ネパール・ルピー



数字で見る ネパールと日本

60689人

日本在住のネパール人数。
中国、韓国、フィリピン、ブラジル、
ベトナムに次いで、第6位。
第7位はアメリカ 5万 3050人。
(2016年6月法務省在留外国人統計)

1088人

ネパール在住の邦人数。
(2015年10月海外在留邦人数調査統計)

1669店

日本のネパール料理店の数。
(食ベログ調べ)
店名に「ネパール料理」と
書かれていなくてもネパール人が
経営しているインド料理店も多い。
日本のインド料理店は4259店。

ネパールの教育事情

ネパールの学校は1〜8年生、9〜12年生に分かれています。初等教育最初の5年間は、無償で授業を受けられるため入学率は91・8%ですが、貧困などの理由で卒業できる子どもは67・5%。都市部と村落部の格差が大きく、都市部に設備が整った私立校があるのに対し、村落部は設備や教師が不足し、近くに学校がないため何時間も歩いて学校に通う子どももいます。

※2015年 ネパール教育省統計

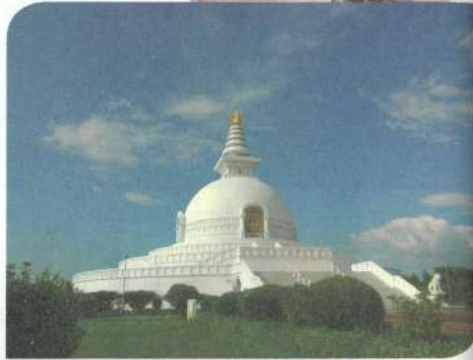
チベット仏教の聖地 「ボダナート」

カトマンズから東へ約7km、南アジアで最も大きな36mの仏塔を持つ寺院。かつてのチベットとの交易路に位置し、ここを通るチベット商人の休息地として、旅の無事を感謝し帰路の安全を願う祈りの場所となりました。地震の影響で仏塔(ストゥーパ)は倒壊したが、現在は再建されている。



仏陀の生誕地「ルンビニ」

インドとの国境近くネパール南西部に位置し、ユネスコ世界文化遺産にも登録。



エベレスト

世界最高峰のエベレスト(8,848m)と日本最高峰の富士山(3,776m)は、2014年6月に姉妹山の提携を締結。



北のヒマラヤ山岳地帯(標高約4,000m)、中部の丘陵地帯(標高約1,000m)、インドと国境を接するタライ平野地帯(標高約70m)に分かれ、中部の丘陵地帯にもっとも多く人が住み、国土の大半を占める。

気候

首都カトマンズの緯度は、日本の奄美大島とほぼ同じ。冬は東京より暖かく、夏は東京よりも涼しい。



楽器

腰や首から提げて両手で演奏する太鼓の「マダル」。結婚式やイベントの時に見かける大きなラッパのような楽器の「チュールピー」。

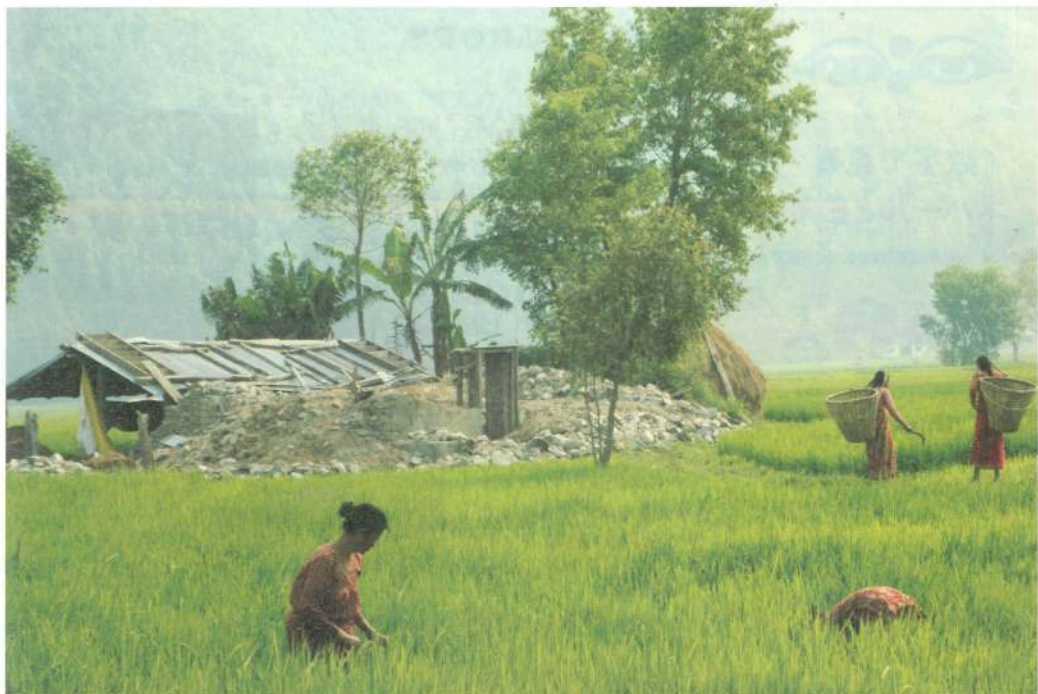
ナマステ！ ネパールのあいさつは、インドのヒンディー語と同じ「ナマステ」です。国境を接するインドと中国の影響を色濃く受けているネパールの街並みや景色をのぞいてみましょう。

ネパールの街角から



食事

ネパール風定食「ダルバード」が人気。ダル(みそ汁代わりの豆汁)とパート(ご飯)、タルカリ(おかず)、アチャール(漬物)が盛りつけられた定番料理。



ネパールの農村風景 © Aavas Parajuli

ネパールの抱える課題

ネパールは今、多種多様な課題を抱えています。後発開発途上国に分類されるネパールの経済統計は一見良好に見えますが、受入国の政策に左右されやすい出稼ぎ労働者からの送金がGDPの約30%を占めています。近年、都市部にヒト・モノ・カネ・情報が集中し、国民の約80%が住む農村部や山岳部との格差が拡大しています。10年におよぶ内戦が2006年に終わったばかりで、終戦を象徴する平和憲法も先の震災の混乱のなか多くの議論と対立を経て成立したばかりです。

課題1 教育

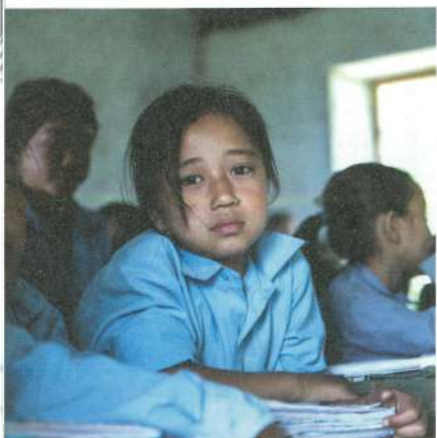
ネパールの純就学率は1983年の59.4%から2015年には96.8%へと劇的に上昇しました。一方、出席率が低く、退学率も高いため、中等教育への進学率は低く、教育の質の改善が今後の課題です。女性の地位が低く、女性の成人識字率は54.7%しかありません。出稼ぎ労働者は、若くして中東や東南アジアの建設現場に出向き、過酷な労働環境で事故に遭うことも多く、就業訓練も求められています。

課題2 復興

幹線道路沿いの大きな学校から支援が始まりましたが、山間部の小さな学校にはまだまだ支援の手が届きそうにありません。震災から1年以上経った今も多くの人々がトタンの小屋で生活しています。夫が海外へ出稼ぎに出ている世帯の多くは、妻が一人で家庭を切り盛りしています。生徒や先生もこれほど大きな震災を体験したのは初めてで、安心して授業を行うためには、学校運営に防災教育を取り入れていかななくてはなりません。

課題3 格差

地域や民族、ジェンダー間の格差拡大も懸念されています。地域ごとに復興事業の進捗が異なり、民族やカースト間の見えな差別や取り残される女性たちなど、元々の課題が複雑に絡み合っています。新憲法が2015年11月に制定されたネパールは今、社会の再編成の時を迎えています。シャントイも社会の不平等とどのように取り組んでいくか、根本的な問いを突き付けられています。



ヌワコット郡の小学校



ヌワコット郡 倒壊した家屋



ヌワコット郡 荷物を運ぶ女性



震災を経験した 人々の声

畑の草刈を手伝っていたとき、突然地面が揺れて倒れてしまった。怖かった。

(7歳女性：4年生)

地震で建物が崩れていくのを見た。学校が壊れて無くなってしまわないか心配。

(12歳女性：5年生)

教員ですらおびえ、混乱していた。パニックに陥った子どもたちをどう落ち着かせればよいか分からなかった。

(26歳女性：小学部担当教員)

地震への備えは重要だが、何もできていない。今もタンの家に住んでいるので安全ではない。

(27歳女性：社会科教員)



上：泥道でスタックしてしまった車はみんなの力で押し出します。

下：ヌワコット郡バイラム小中学校仮設校舎の建設風景

1

学校建設

シャンティは復興庁と協力し、復興に着手できない学校校舎建設を行っています。復興庁とは、学校選定など事業実施のレベルで協力しています。復興庁はすべての設計図の耐震性能を審査しており、新しく立てる校舎には防災の視点が取り入れられています。耐震能力のある学校校舎の建設を通じて、特に遠隔地に住む子どもたちの教育を受ける機会を保護することを目指します。

ネパールでの活動

地震発生直後、緊急期における教育支援で培ったネットワークを生かし、学校の被害が大きいヌワコット郡とラスワ郡で復興支援を開始します。ヌワコット郡は、ネパール復興庁が指定した特に被害の大きかった7郡のうちの一つで、震源地ではないにもかかわらず、学校校舎の質が悪く、教育施設への被害が2番目に大きかった地域です。

建物が崩れる様子を目の当たりにした子どもたちは、校舎の中で勉強するのは不安だと言います。そんな声に対し教育省は、安全な学習環境と学校防災を行う包括的學校安全化アプローチ(CSS)を採用することを決めました。教育省の学校運営改善事業(SIP)では、学校の運営指針に「防災」が盛り込まれています。

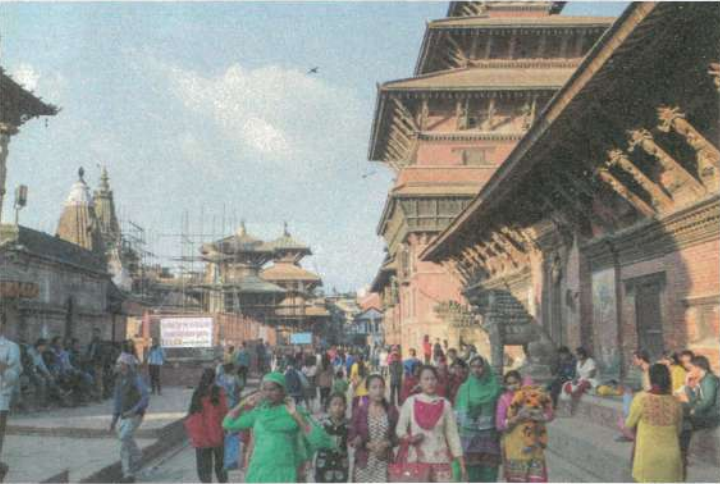
ネパールの政策にも対応し、シャンティは子どもたちが安心して学校で勉強できるように防災教育などの活動に取り組みます。

子ども向けワークショップでの集合写真



ヌワコット郡ラムチャンドラ小中学校

①ネパールの子どもたち ②カカニガネシュ小学校の仮設教室 ③チトラバル小中学校への学用品、図書の配布 ④緊急支援で建てた教室の前で ⑤ヌワコット郡の学校の前で ⑥絵本を読むネパールの子ども ⑦パタンのダルバール広場。一部の建物は倒壊を防ぐため棒で支えられている。



7

© Aavas Parajuli

4

6

3

5

2

防災教育を通じた

心のケア

地震への備えは、建物（ハード）だけでなく人（ソフト）の備えも必要です。シャンティは防災をテーマにした教材開発にも取り組みます。防災教材にはネパール固有の災害リスクを取り入れ、子どもたちの心のケアにも対応したものを作成しています。これまでシャンティがアジア各国で培ってきた教授法や非識字者へのアプローチを活用していく予定です。

また、読み聞かせは被災した子どもたちの心のケアにつながるため、図書館活動も紹介しています。

防災計画の策定

多くの教員が震災時の対応に不安を抱えています。ネパールでは、防災が学校運営指針に入ったばかりで、学校が個々にその指針を具体化する必要があります。また、地理的・民族的背景が学校ごとに大きく異なるため、それぞれの学校で独自の防災計画を立案しなくてはなりません。学校の震災時の対応計画を作成するため、教員や地域の人々に参加してもらいながら計画を策定していきます。

地域の防災能力の向上

学校の防災活動は、地域の協力なしには成り立ちません。学校で被災した場合、どのように子どもたちを家に帰すのか、子どもたちの通学路は安全か、どこが災害に弱いのかなどを地域と連携して確認していきます。実際に、注意が必要な場所を見に行き、地域と学校で協議してアイデアを共有し、地域の防災能力を向上させます。

また、防災には地域の人々をはじめ、様々な人が関わります。識字率が低い村では、防災の必要性を理解してもらえないよう絵やイラストなどを使って分かりやすくすることも重要です。

TIPS ■ もっとネパールを 身近に感じるエトセトラ

読む

見る

写真集「ヒマラヤに捧ぐ」

野口健 / 集英社インターナショナル

2016年

ネパール大震災の復興活動に奔走したアルピニスト野口健による写真集。ヒマラヤの大自然とネパールの人々の暮らしが写されています。



ネパールを知るための60章

日本ネパール協会 (編)
明石書店 / 2000年
専門家や教授、国際機関職員、
NGO関係者らが執筆した、ネパールの今がわかる一冊。

小説 / 映画

「エヴェレスト 神々の山嶺」

夢枕獏 / 角川文庫 / 2015年
エベレスト登頂をテーマにした山岳小説の代表作。平山秀幸監督により映画化され岡田准一、阿部寛、尾野真千子らが出演。地震が発生する直前の2015年4月中旬に収録を終え、カトマンズの被災の様子も収められています。



食べる

ネパール&チベットレストラン レッサムフィリリ高輪店

東京・泉岳寺にあるネパール料理店。2016年4月、シャンティのネパール緊急支援報告会を開催しました。ネパールの伝統的な料理に触れてみたい方はぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか。

●東京都港区高輪 2-14-9 三愛ビル梅館 101
都営浅草線・京急本線泉岳寺駅徒歩3分
JR品川駅徒歩7分



ネパールの子どもたちと
山本英里 (中央)、竹内海人 (右)

ネパールでの緊急救援と 事務所開設を振り返って

事業サポーター課課長

山本英里

震災直後、連日報じられるネパールの被災地域の混乱を見て、険しい山岳地帯での支援がいかにかに厳しいか、すぐに想像できませんでした。

「あそこです」と指さされた被災地域は目の前のように見えませんが、雨や地震による土砂崩れで道路は寸断されています。歩き続けること1時間、標高約2000メートルの村にようやくく辿り着きました。その先にも被害を受けた村があり、歩いて2日かかると言います。時間との闘いの緊急救援において、私たちの足を阻むのは人の力ではどうにもできない大自然。資材や支援物資が運べないと途方に暮れたとき「人を運べます」「道路を直します」と多くの住民が被災しているにも関わらず助け

てくれました。テントや民家の鳥小屋、電気や水もない家屋でネパール人と寝泊まりする中、ネパールの生活や文化を学ばせていただきました。

いまだ余震の度に子どもたちは悲鳴を上げ外に飛び出すと言います。そんな子どもたちが読み聞かせでくつたくな笑顔を見せてくれたとき、絵本の強い力を実感できます。

内戦が終わり、ネパールが平和を取り戻してからまだ10年。課題が山ほどある中、のしかかる震災復興。1年経った今も、ボロボロの仮設教室に子どもたちが通い続けています。カトマンズに構えた事務所を拠点に、ヌワコット郡で活躍してきた老舗の現地団体と共に、国の復興に貢献できたらと思います。

お祭り

10月

ネパール
ティハール

Nepal
tihar

ティハールは、富と繁栄、収穫などを祝うお祭りです。

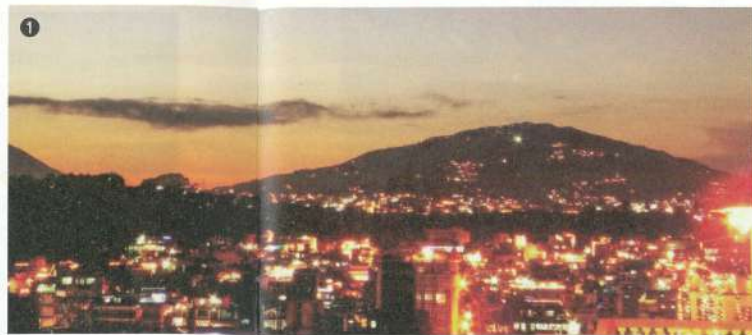
日が落ちた後、火を灯すことから「光の祭」とも呼ばれています。

祭りは5日間行われ、日によって祝う内容が異なるのが特長です。

街には飾り付けに使われるマリーゴールドがあふれ、

老若男女はもちろん、犬も「ティカ(Tika)」と呼ばれる

「印(いん)」を額につけます。



①日が落ちた後、光を灯すことから「光の祭」とも呼ばれています。

②③飾りとろうそくの火でティハールを祝います



④⑤ティハールの時期になると街にマリーゴールドの花があふれます。
⑥⑦ティカの色や形、材料はその時々で変わります

写真はすべて © Aavas Parajuli



1日目



カラスの日「カグ・ティハール」

ネパールでは、カラスは閻魔大王の使者として知られ、自分の家の屋上に来るカラスを礼拝し、カラスに美味しい物を食べさせます。礼拝することで、閻魔大王に悪い事を知らせないようにお願いするのです。

2日目



犬の日「ククル・ティハール」

ヒンドウ教では、犬も閻魔大王の使者と考えられ、この日は犬を敬い、首に花輪をかけたリ、額にティカをつけたりします。この日だけは、犬がいたずらしても何もしてはいけません。カラスや犬が変な動きや鳴き方をしたら、悪い事が起きると信じられています。

3日目



女神吉祥天の日「ラクシュミー・プジャ」

ラクシュミーは吉祥天の名前で、プジャはお祈り、または儀式を意味します。ネパールでは吉祥天はお金の神様として知られ、朝から家やお店の掃除を始め、マリーゴールドの花輪で飾ります。日が落ちたら、電

4日目



牛の日「ガイ・ゴルティハール」

気飾りやろうそくで灯明します。

ガイ(メス牛)とゴル(オス牛)をお祝いします。ネパールでは畑を耕すとき、いつも牛に助けてもらっているのです。この日は牛を休ませて、美味しい物を食べさせます。ちなみに、ヒンドウ教では牛は神様です。また、4日目はネワール族のお正月でもあります。一年間、知らない内に悪いことをした分、体を清めます。新年からは新しい人生を始めるといふ意味もあります。

5日目



兄弟・姉妹の日「バイティカ」

この日はお嫁に出た女性たちも実家に戻り、兄弟の長生きや健康を祈ります。伝説では、命がつきそうな弟を迎えにきた閻魔大王に対し、姉は弟に千日草の花の首飾りをかけ「千日草の花が枯れないうちはこの世から連れていかないで」とお願いしたそうです。千日草はなかなか枯れない花で、弟はそれから何年も生きられたことから、長寿を願う日となりました。



ボート移動図書館活動に挑戦

ラオス Laos

報告：カムコン・クンチャムン（ラオス事務所）

村には市場や商店は少なく、外部と接触する機会もわずかです。シャンティの活動は、子どもだけではなく大人にも本を読む機会を提供しており、本を通して家族の暮らしを楽しんだり、未来を明るくする大きな意味と責任を感じています。

すべての小学校に読書の機会を提供するため、川の水位が十分にあり雨季に、ボートを使った移動図書館活動を始めました。ハフーン小学校の教員は「ボートで1時間ほどかかる郡の中心地に行くにはお金がかかるため、会議に出たり、家族に会ったり、用事がない限り村から出ません。支援が入りにくい地域のため、シャンティの移動図書館活動はとても貴重です。子どもたちは本を読む楽しさを覚え、学習意欲も高まった気がします」と言います。

ラオスのヴィエンカム郡には、車ではたどり着かない村がいくつかあります。バイクやトラクターが通れる道幅の農道はありますが、雨が降ると急勾配の道路はぬかるみ、危険です。そんな村の主な移動手段はボートです。



静岡県での幼児教育研修で学んだ「遊び」の大切さ

報告：トン・モンクラ（カンボジア事務所）

Cambodia カンボジア

2016年9月20日から29日にかけて、カンボジア王国教育省・局職員および幼稚園教員計7人を対象に、静岡県で幼児教育研修を行いました。研修はJICA草の根技術協力事業の一環として、協力団体である社会福祉法人天竜厚生会と開催しました。

研修では静岡県内の小学校や保育園、幼稚園の視察、実習などを行いました。特に実習では、子どもたちが「勉強」ではなく、楽しそうに「遊んで」いる姿に感動しました。勉強中心のカンボジアの幼児教育とは異なる光景です。先生が活動の進行にいつも気を配り、活動が子どもの成長にどうつながるのか、常に考えている姿も印象的でした。

研修に参加した幼稚園の先生は「学んだことをカンボジアで実践したい」と話しています。教育省も研修の学びを政策に取り入れていく意向を語るなど、実り多い研修となりました。ご協力くださった皆さまに心からお礼申し上げます。ありがとうございました。





図書館に児童書コーナーを設置

アフガニスタン **Afghanistan**

報告：三宅隆史（アフガニスタン事務所）

2016年10月には、バルフ州の情報文化局長に列席いただき、マザリシャリフ公共図書館の児童スペースの開所式を行いました。開所式の様子は地元テレビ局のニュースで報道されました。図書館は午前8時から午後2時まで、週6日開館しており、児童スペースの開館後、週に60から110人の子どもたちが利用するようになりました。

アフガニスタンには、全国に85の公立図書館があります。しかし、図書館に児童書コーナーがあり、読み聞かせなどの児童サービスが行われているのは、シャンティが支援したカプールの国立図書館と、ナンガハル州の5つの図書館だけでした。

2016年、シャンティはアフガニスタン北部の主要都市マザリシャリフの公共図書館と、西部の主要都市ヘラートの公共図書館、東部のクナール州の公共図書館2館に児童書コーナーを設置しました。併せて、図書館員に対する児童サービスの研修を行い、図書や備品の供与も行いました。



図書館から離れた地区での読書推進活動

報告：ブリーダラット・タマタサナディー（BRC事務所）

BRC ミャンマー（ビルマ）難民キャンプ

いま私たちは、図書館から離れた地区での読書推進活動の拡大に尽力しています。図書の貸出はもちろん、毎週末、青年ボランティアによる読み聞かせやレクリエーションゲームを各地区で行い、図書館から遠いコミュニティで生活する人たちにも図書に触れてもらえる良い機会となっています。

地区の自治組織であるセクション委員会は、活動場所として事務所のスペースを貸してくれたり、地区の子どもたちや保護者に図書館活動への参加を促してくれたりしています。子どもたちは本を通してたくさん学び、読書活動にとっても積極的に自信を持って取り組むようになりました。また、活動を通して人との出会いにも喜びを感じています。読書推進活動は、子どもたちが多くのことを学ぶ場となるだけでなく、新しい人々と出会う機会を作り、友だちとの交流を増やすことができます。と実感しています。



“笑いヨガ” 笑うだけで健康に

岩手 Japan

報告：吉田晃子（岩手事務所）

「楽しくなくても笑っていると本当に面白くなって笑ってしまう。掃除している時、歯を磨いている時、いつでもいいのです。それが健康につながる」との言葉で終了しました。笑いヨガが終わってから、参加者から「ナマステ」挨拶がしばらく続きました。

まず2人で向かい合い、講師の釜澤俊一さんの掛け声で頭の運動から。頭を使い向かい合った相手と一緒に体も動かすのが難しい。頭の中が混乱し自然と笑いが漏れてきます。「考えながら体を動かすと脳が活性化し、認知症予防になります」という話を聞きながら参加者は笑いっぱなし。「ナマステ」と手を合わせて相手と向かい合っただけ。今度は笑いながら手を合わせて心の中で「ナマステ」。自分の笑い声とみんなの笑い声で自然と笑い出し、集会室は笑いの渦へ。

2016年10月28日、陸前高田コミュニティ図書室で「笑いヨガの呼吸法と同じ、笑うだけで健康になる」という笑いヨガを行いました。



寺院学校の建設の様子をじっと見守る学校長

報告：サライヨミントゥン（ミャンマー事務所）

Myanmar ミャンマー

現在、ミャンマーでは3か所の寺院学校の校舎を建設中です。シャンティの寺院学校建設事業には2つの特長があります。一つは、建設した新校舎に図書コーナーを作った子どもたちに絵本を届けること。二つ目は、校舎を大切に使うため、地域の人たちに積極的に学校運営に参画してもらうことです。寺院学校の建設に対する地域の関心は高く、建設会社も寺院学校の発展に携わることには名譽なこととして、熱心に取り組んでくれています。

現在建設中のズインチャンタウン寺院学校の学校長であるジャンインダ僧侶は、地域の僧院を統括する重職にあり大変忙しい方ですが、私たちが建設現場を訪れる度に必ず建設現場に出てじっと作業を見守っています。地域の子どもの教育に熱心に取り組んでおられる学校長です。

現在建設中の3つの寺院学校が完成すると約1000人の小学生が恩恵を受けることができます。みんなが新しい校舎の完成を心待ちにしています。





懐かしい気持ちや歴史文化への誇りを大切に

報告：古賀東彦（山元事務所）

山元 Japan

2016年10月15、16日、南相馬市小高区で「復活！秋まつり」が催されました。小高区内の避難指示解除準備区域と居住制限区域に出されていた避難指示が解除されて約3ヶ月。小高には、原発事故が起こる前の人口の約1割、1千人弱しかまだ戻ってきていませんが、この2日間はその何倍もの人で賑わいました。シャントイ山元事務所も、昭和初期に建てられた高島屋蔵を会場とする「小高思ひ出かふえ」（主催：小高の歩みたんがく会）をお手伝い。蔵の中では、自然、祭り、商店街、学校など小高の懐かしいスライドが上映され、楽しんで出て来られた人たちの思い出話を聞かせていただきました。「昭和の小高がそのまま戻ってきたようね」という声も。

10月29、30日には、埴谷・島尾記念文学資料館の再開館を祝って、小高に緑りのある文学者、島尾敏雄に関する講演会と、津波被害に遭った海岸地帯を含め島尾の短編小説の舞台となった小高各所を見て回りました。土地への懐かしさ、文化への誇りを大切にする活動を、山元事務所も応援したいと考えています。

日本 しゃんてい な旅

青森県八戸市 常現寺



①常現寺の外観 ②常現寺の法要控室に設置された「ブツダブックス」
③本堂にて高山元延住職

◎常現寺
青森県八戸市小中野6丁目25-8

◎アクセス
JR八戸線「小中野」駅から徒歩10分

◎周辺のみどころ
陸奥湊駅前朝市 徒歩10分
館鼻岸壁朝市 徒歩20分/車5分
三八城公園 車10分



常現寺には「ブツダブックス」という本棚があります。これは、現八戸市長が掲げる「本のまち八戸」に呼応して、八戸仏教会が八戸市と協力して取り組んでいる企画です。仏教会加盟の約50カ寺に本棚が置かれ、住職が紹介したい本などが蔵書されています。「ブツダブックス」は本堂や待合室に設置され、本を自由に読むことができる場をつくり、お寺をもっと身近に感じてもらおうことを目指した取り組みです。

他にも「街おこし・寺おこし・心おこし」として、節分には神楽奉納の祈願を行ったり、灯笼流しやYOSAKOIフェスティバルなどのイベント、秘仏のご本尊魚籃観音様のご開帳の法要などで、地域の方々と共に地域を盛り上げています。伝統芸能や伝統工芸品、郷土料理が多い青森県旧三市の一つである八戸市は、本の力で地域を盛り上げ、地域やお寺の新たな魅力を発信しています。

たいせつな 友だち



3
すると牛たちが勝手に移動して、村の畑を荒らしているの知らせを受け、ポ・ニは急いで畑に向かいました。



7
雨季が終わわり、二人の男の子ポ・ニとニョ・マウンは干上がったマガリ川に残る魚を捕まえることができましたと喜んでいました。



2
ある日、魚取りに夢中になっていた二人。ポ・ニは牛の世話も同時に行っていたことを忘れていました。

4
牛たちを連れ戻したポ・ニが戻ってくると、捕まえたたくさんのお魚たちとニョ・マウンがいなくなっていました。



6
実は、具合が悪くなったおばあさんを病院に送るために帰って来たニョ・マウンは、捕った魚をポ・ニの家に届けてくれたのです。ポ・ニは友だちを疑ったことを反省し、また一緒に泳ぎたいよ、と願いました。



5
ニョ・マウンが魚を独り占めして帰ってしまったと思ったポ・ニ。怒りおさまらぬまま家に帰ると、お母さんが大好きな魚カレーを作ってくれていました。



シャンティからのお知らせ

2017年度総会のお知らせ

2017年度総会を下記の通り開催いたします。総会での議決権がある社員会員の皆さまには、3月初旬にご案内と資料をお送りします。賛助会員の皆さまもシャンティの事業について詳しく聞ける機会です。ぜひご参加ください。総会に合わせて、朝日新聞コンテンツ戦略ディレクターの藤谷健氏による講演会と懇親会も開催いたします。

日時：2017年3月25日（土）13:30～19:00
 主な議題：2016年度事業報告・決算報告について
 2017年度事業計画案・予算案について
 プログラム：第一部 2017年度定時社員総会、
 物故者追悼、永年会員表彰
 第二部 交流会
 第三部 藤谷健氏 講演会
 第四部 懇親会

申込方法：電話、FAX、メールでご連絡ください。
 ※社員会員の方には2月下旬、出欠確認のハガキをお送りします。

今年もよろしくお願いします



人事のお知らせ

- 入職
嘉味田 倫慧 (契約職員)
 支援者リレーションズ課 (11月1日付)
- 雇用形態変更
山本 栄吉 (嘱託職員)
 事業サポート課 訪問者対応(10月1日付)
- 役職名変更
山本 英里
 事業サポート課 課長
木村 万里子
 事業サポート課 課長補佐

※海外事業課と緊急救援室が一つになり、新たに「事業サポート課」に名称が変更になりました。

編集後記

12月7日に最終回を迎えた石原さとみさん主演の連続ドラマ「地味にスゴイ！校閲ガール・河野悦子」はご覧になりましたか？文章の誤りを正す校閲という仕事にスポットを当てたドラマです。校閲という仕事に注目が集まっており、ドラマを通じて、普段目にする機会はないが、なくてはならない仕事がたくさんあることに気づかされました。私たちが普段行っている活動もさまざまな人の力が合わさり、はじめて成り立ちます。普段目にするにはできないけど、地味にスゴイ仕事や活躍をしている人たちをこれからも取り上げていきたいと思ひます。(沼田安宏)

シャンティからのご案内

2017年も
 よろしく
 お願いします

「クラフトエイド」新商品のお知らせ

アフガニスタンから鮮やかなウールのバッグが届きました！六角形の底が広く、見た目以上に物が入ります。このウールの手織り生地は、野外で織られているので、夏場限定のもの。生地を織って稼いだお金で、女性たちは厳しい冬を越す準備をしています。クラフトエイドでは新春セールも開催しています。今だけのお得商品のご注文は、クラフトエイドオンラインショップ(www.craftaid.jp)まで。

「絵本を届ける運動」2017年度募集開始

2016年も全国の皆さまにご協力いただき、約1万8000冊の翻訳シールを貼った絵本を作成することができました。厚く御礼を申し上げます。現在、船便で現地に送る準備を進めています。1月より2017年度の申込受付を開始しました。この度、9年ぶりに参加費を見直し、1セット2500円に改定いたしました。皆さまにはご負担をおかけしますが、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



「シャンティ」は、FSC®森林認証紙にノンVOCインキ(石油系溶剤0%)で印刷しています。

シャンティ 2017年冬 288号

2017年1月1日発行

発行人 若林恭英
 発行所 公益社団法人シャンティ国際ボランティア会
 〒160-0015東京都新宿区大京町31 慈母会館2・3階
 TEL 03-5360-1233 FAX 03-5360-1220
 WEB: www.sva.or.jp E-Mail: info@sva.or.jp
 郵便振替 00150-9-61724

編集人 関尚士
 装丁・レイアウト 矢萩多聞 イラスト: きよはらえみこ(p6-7)
 印刷 株式会社大川印刷 [定価550円]

©1985-2017. Shanti Volunteer Association. Printed in Japan.
 ●シャンティ国際ボランティア会へのご寄付は、税制上の優遇措置が受けられます。